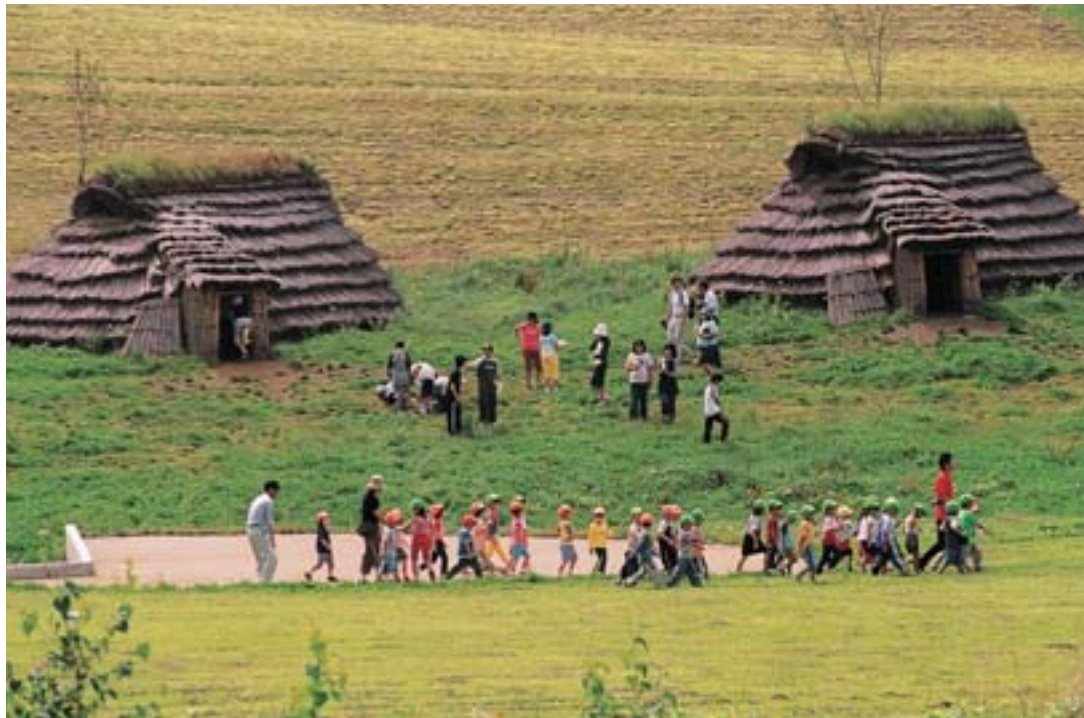




岸は40カ所もの貝塚が分布し、ほとんどが有珠地区と黄金地区に集中している。
北黄金貝塚は縄文早期（7000年前）から中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や墓のほかに、全国的にもほとんど例のない「水場

の祭祀（さいし）場」が発見された。石作りの道具などを供養する神聖な場所だったと考えられている。

オットセイやクジラの骨で作った道具類、ハマグリ、カキなどの貝殻も多い。

× × ×

道南では、南茅部町で発掘調査が盛んだ。集落規模としては国内最大級の大船C遺跡など88カ所の遺跡があり、出土品は精巧な漆塗り製品など350万点を超える。

国の重要文化財に指定された「中空土偶」や、縄文時代の農耕を知る手がかりになった粟（あわ）・ヒエの種子など、全国的な注目を集める出土品が多い。

集落規模の大きさは、食糧を得るのが容易で移動の必要がなかったからと想像できる。

※南茅部町では平成14年12月28日、埋蔵文化財調査団事務所で火災が発生、全焼しました。この火災により、約9000年前の漆副葬品などの文化財が被災しました。現在、改修・修復作業に取り組んでいます。

Data

●お問合せ先

南茅部町教育委員会埋蔵文化財調査室

Tel.01372-2-3789

伊達市教育委員会文化財課 Tel.0142-21-5213

充実した博物館だ。大島さんは同公園で毎月「縄文セミナー」を開催し、講師を務めている。

まちづくりと遺産

見て、知って、体験して

PRも活発に

発掘調査が活発な伊達市と南茅部町で、縄文人の遺跡を「地域の遺産」としてまちづくりに活用しようと、住民らが保存や研究・普及啓発に努めている。

◆南茅部

南茅部町は多数の遺跡群をまちづくりに生かそうと「縄文遺跡の里」をPR。発掘に携わる主婦や商店主、会社員らが「北の縄文CLUB」を結成し、発掘作業や研究、遺跡周辺の清掃などに取り組む。毎年夏に「縄文土器の製作体験」を企画。大勢の縄文ファンが粘土をこね、野焼きして楽しむ。

◆伊達

伊達市の「北黄金貝塚公園」は竪穴式住居や貝塚を再現し、縄文人の暮らしを紹介。発掘作業を疑似体験できるコーナーもある。

市民もボランティアとして遺跡保存や啓発活動に参加。同公園で縄文期に生えていたクリ、トチ、ナラなどを植樹する「縄文スクスク森づくりの会」、公園の展示物を見学者に解説する「オコンシベの会」がある。市教委の大島文化財課長は「遺跡を自分たちで守っていく意識が生まれ、大変うれしい」と話す。